

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.76

感動体験の必要性



NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

だ。ショート動画の連続視聴が何時間にもなると感情が成長しない。Instagramの投稿を2時間以上見ていると、他人の幸せと自分の比較から、鬱^{ふさ}傾向に陥りやすいと言われる。何より大人用の端末には子どもには見せたくない情報が表示されてしまつたのだ。

しかし、ゲームやネット依存傾向の子どもたちが全て乱暴になつていくわけではなく、依存傾向の子どもでも学力が高い子どもも多い。この違いは家庭環境であり親子の関係にある。いかに「感動する体験」を子どもに与えているかで、乱暴な傾向に進むか、優しい子どもに成長するかに分かれるようなのだ。

* 親子で映画館で映画を視聴し、静かに90分映画に集中してマナーと感動を体験する。

* 旅行に連れ出し、綺麗な景色や感動を体験する。

* 部活やスポーツの応援をし、感動を共有する。

* 食事の時は親子で楽しく話をし、子どもの言葉に耳を傾ける。

たったそれだけでも、乱暴な子どもにはならない。勉強とゲームだけで過ごす子どもとは心の成長が違うようだ。簡単なようでも、忙しい大人にはなかなか時間をつくることは難しいと思うのだが、子どもが幼い今しかできないことなのだ。将来、依存症と診断され、親子ともどもイライラした暮らしをすることになる前に、子どもの変化に気づいてほしい。

これまでの暮らしとは全く違う環境が子どもの周りにあることを大人が理解しなければ、乱暴な行動をとる大人をつくりかねない。

ゲームや動画サイトの影響で、言葉や仕草が乱暴になつてきた幼い子どもが増えている。小学校でも高学年に質問してみると1、2年生が言うことを聞いてくれないという。コロナ禍の影響でゲーム機やスマホの使用時間が増えてしまった影響が3年目で表面化し出した。これは居住エリアには関係がないようで、地方でも同じようだ。特に学校の統合で学園となつたエリアはスクールバスで通学し始めてから、バス停と学校の行き来で地域の大人と顔を合わせる機会が少なくなり、挨拶を交わさなくなった。マスクの影響もあり、意識的に挨拶運動をされているエリアとの違いがコミュニケーション能力の差となつて現れているように思う。

コロナ前とは違い、ゲーム機やスマホの所持率も増え、低年齢化している。最近の聞き取り調査でもニンテンドースイッチが一家に複数台あり、親の機種変更後の古いスマホも複数台は家にあるという。ニンテンドースイッチ、3DS、プレステ、スマホ、タブレット、パソコン、ネット対応テレビ……等、低学年のいる若い世帯ほど親のスマホ買い替えサイクルも早いようで、解約スマホが複

数台ある。1軒に10台前後は端末があり、WiFiで子どもたちが使用している。学校で導入されたタブレットの影響もあり、この3年で全く抵抗なしに端末を使用する児童が以前より低年齢でも増えている。中学生なら自分のスマホを所有しているのだが、低学年は解約スマホで同じように使用しているため、親の古いスマホの電話帳データがそのままの状態であつたり、アップルやグーグルのアカウントがそのままの状態でも子どもたちが使っているため、SNSで親の知り合いに投稿がオススメされたり、写真データが保護者と共有されてしまつてすることに気づいていない方も多い。

子ども名義でアカウントを取得し、子どもの年齢に合わせた設定がしてあれば過激なサイトも表示されないのだが、親の解約スマホは「大人の」使用する設定となつている。つまり成人として動いている端末であるから、お勧めされる動画や広告が「大人用」である。幼い子どもにも人気のあるTikTokは、18歳未満の端末では1時間を超えた視聴ができないように対策がとられているのに、この機能も働いていない状況